

遠島御歌合判詞索引

福田 秀 一

はじめに

一、この索引は、歌論史研究の基礎作業の一部として、後鳥羽院及びその時代の歌論を把握するために作成したものである。

二、底本には岩波文庫『歌合集』所収本を用ゐ、成城大学図書館蔵本を参照した。前者は歌合部類本を底本として書陵部蔵本との校合を付してあり、後者は江戸初期書写の楮紙袋綴一冊本である。但し両本の異同は殆んどない。

三、採集項目は、件名(書名・人名・その他)術語(価値判断を含まぬもの)・評語(価値判断を表すものの)の三部に分け、それ(を)を歴史のかなづかひの五十音順に掲げた。但し、挿入的な助詞や語句は()に包み、それを無視して排列した。

四、見出しは、普通に用ゐられてゐる表記に従ひ、漢字、仮名の別やかなづかひ等、必ずしも該当箇所の用字法通りではない。

五、見出しの下に「一左」、「二右」等と記したのは、その見出しの語句が、それ(を)一番左・二番右の歌に対する判詞の中に用ゐられてゐることを示し、評語の部において(勝)・(負)と付記したのは、その評語の示す属性の故に勝もしくは負の判定が下されてゐることを示す。稀に「左」・「右」の文字を付してゐないものは、その番の歌に直接関係なく用ゐられてゐる語句である。

六、最後に、このやうな索引の作成法について大方の御批判を得たく、御叱正を待ち望む次第である。

なほ、本稿は昭和三十六年度文部省科学研究費による研究の一部である。

一、件名

家隆

家長

古今

七十九右

卅九右

新古今

忠峯

貫之

俊成

俳諧

八代集

堀河院百首

和歌所

二、術語

色

— 深し

歌から

— (も) あしからず

— あしくも見えず

— (は) ことごとくしげにて

— さまでなし

— (も) 勝劣なし

— (聊) 勝る

— 無下に見ゆ

— よろし

— (は) 心もあつてよろし

俳

(昔時々見侍りしかば) — もあり

五十五左

十五右

十二左

四十九右

一

六十七左

一・六十七左

本歌の —

心

— あはれ

歌からは — もありてよろしく見ゆ

— 得ぬ様

— 得られず

— 同じ

— (え) 聞えず

祝の —

歌の —

伊勢が歌の —

貫之歌の —

古歌の —

本歌の —

(時鳥いまだ) 聞かざる —

羈旅の —

古歌の —

忍ぶ —

しるべの —

題の —

旅の —

…といへる —

…とよめる —
(子規) なきつる —

十一左

四十五右

七十二右

六十三左

六十三左

廿二右

四十二左・七十五左右

廿六左

四左

六十三左

十五右

七十四左

十五左

十七左

六十七右

七十四左

五十九右

六十八左右

八右

七十二右

廿三左

五十五左
廿三右

久しき―

本歌の―

山の―

旅泊の―

志

―(も)深し

懐旧の―

羈旅の―

詞

―つゞき姿殊にをかし

歌―

歌の―

姿―よろし

三十一字の―

ことわり

―深し

様

(一応さまト訓ム、ナ
ホやうヲモ見ヨ)

いやしき―

えんなる―

おなじ―

さだかに心得ぬ―

珍しき―
珍しくをかしき―

五十九左右

十五左

十六右

六十七左

七十三左

十三右

七十二左

一右

九右

四十一右・五十三右

二左

一

七十六右

六十一右

六十九左

六十八左右

六十三左

廿六左

六十五右

姿

―やさしき―

―同じ

―詞よろし

家長が好みよみし―

歌の―やさし

うはべに見ゆる―

詞つゞき―殊にをかし

こひねがふべき―

体

―同―

たより

―あり

傍題

風情

常によむ―

本歌

やう(様さまヲモ見ヨ)

あはれなる―

うるはしき―

おぼつかなき―

聞きなれたる―

殊なる―

六十二左・六十九右

三十左右

二左

七十九右

七十二右

一

一右

五十三右

卅二左右

一右

七十六左

五十三右

十一左・十五左・五十左・五十九左

四十七左

卅八右

廿三右

六十五左

廿五左

こひねがふべき

四十七右

長ある

六十九左

ふるまひたる

五十六右

未練なる

七十一左

珍しき

十六左・卅八左

やさしき

十八右・廿八左右・四十二左右

よろしき

四十三右

よろしき

四十八右

三、評語

あしからず

—聞ゆ

十二左

—見ゆ

六左・六十二右

歌がらも

四十四右

あしきものにあらず

五十七左

あしくも聞えず

十九左右・廿一左・四十八左

あしくもなし

卅三左

あしくも(あしくは)見えず

七左右・十一右・廿二左・四十四左

右・五十四左・五十五左右

六十三右・七十六左

四十八右

歌がら

四十八右

あはれ

廿五右(勝)・四十七左

七十九右

心

四十五右(勝)

志

十三右

優

十左右・四十一右

古歌の心

七十四左(勝)

いかにぞや聞ゆ

二十右(負)

いやし

うげず

六十一右

うるはし

十二

うげず

五左(勝)・廿六右(勝)・卅八右(勝)

艶

廿八右(勝)・五十八右

—なるさまには聞えず

六十九左

—にも聞えず

卅九左・五十三右

心—には聞えず

廿六左

おぼつかなし

六左・廿三右・卅二右・六十左

思ふところあり

二左

—てよろし

四十六右(勝)

聞きなれたり

六十五左

聞きよくもなし

五十四右(負)

心得

六十三左(負)

さだかに—ぬ様

廿二左

—られず

十四右

ことごとし

歌がらは一げにて

六十一右

せんなし

十五右

ことなることなし

七十右(負)・七十七左右・七十九左

たけ

四十三左(勝)

ことなること見えず

六右

あり

廿八右(勝)

ことなるやうにも見えず

廿五左

——もありて艶にも聞ゆ

あるやうには見えながら艶なるさまには聞えず

こひねがふ——庶幾せられずヲ見ヨ

廿一右・六十右(勝)

たしかなり

六十九左

さしたる難(は)なし

廿一右・六十右(勝)

羈旅の心は——

六十七右

さして難(も)なし

十四右・四十七左・四十九左

羈旅の志は——

七十二左

さして難(は)見えず

九左

心も——

五十九右

させることなし

五左・十一右・十三左・十六右・六十四左右・七十八左右・八十左右

なだらか

十一左・卅二左・卅三左・四十四左

させる難(は・も)なし

難

——(も)なし

廿三左右・廿六右

歌がら——

七十九右

——(は)見えず

廿九右

しどけなし

四十四左(負)

さしたる——なし

十一左・卅二左・卅三左・四十四左

秀逸

卅三右(勝)

さして——見えず

廿三左右・廿六右

重点がち

五十五右

させる——なし

廿三左右・廿六右

庶幾せられず

四右(負)

はなやか

五右

こひねがふべき姿にもあらず

五十三右

深し

十左(勝)

こひねがふべきやうにもあらず

四十七右(負)

色——

七十三左(勝)

すぐれたるものにはあらず

十七右

志も——

七十六右(勝)

すぐれたるものにはあらず

十七右

ことわり——

七十六右(勝)

すぐれたるものにはあらず

十七右

ことわり——

七十六右(勝)

すぐれたるものにはあらず

十七右

ことわり——

七十六右(勝)

すぐれたるものにはあらず

十七右

ことわり——

七十六右(勝)

すぐれたるものにはあらず

十七右

ことわり——

七十六右(勝)

↓さノ部ヲ見ヨ

ふるまひたり

平懐

ほいなし

耳に立つ

未練なり

無下

歌がら―に見ゆ

目驚く

―ものにはあらず

珍し

―き様

―きやう

―きやうにもあらず

―くはあらず

―くをかき様

めなれたり

目に立つ

―ことなし

文字同じ

やさし

五十六右

五十五左

十七左

五十左(負)

七十一左(負)

十七左

一左

廿六左

卅八左

十六左

五十六左

六十五右(勝)

五十三左

五十七左

五十六右

六十一右(負)

二右

十八右

廿八左右

卅三右

卅五右

四十二左右

四十三右

五十右

(勝)・五十一左(勝)・五十八左

歌の姿―

やすらか

よしなし

よろし

九左・八十右

七十二右(勝)

十三右・四十四右

五十九右(負)

八左・十二右(勝)・十四左

十八左・廿七左右

廿九左・卅一右(勝)・卅四右(勝)

卅六右(勝)・四十左

四十二左右

四十五左

四十六右(勝)・四十八右

五十七右

五十八右

六十八左右

七十六右

七十四右

十六右(勝)

五十八右

十五右

二左

卅三右

卅五左

四十五右

四十九右

五十二右

六十六左(勝)